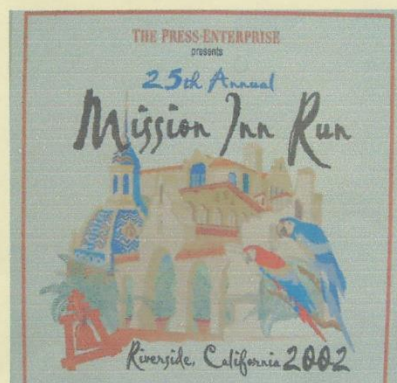
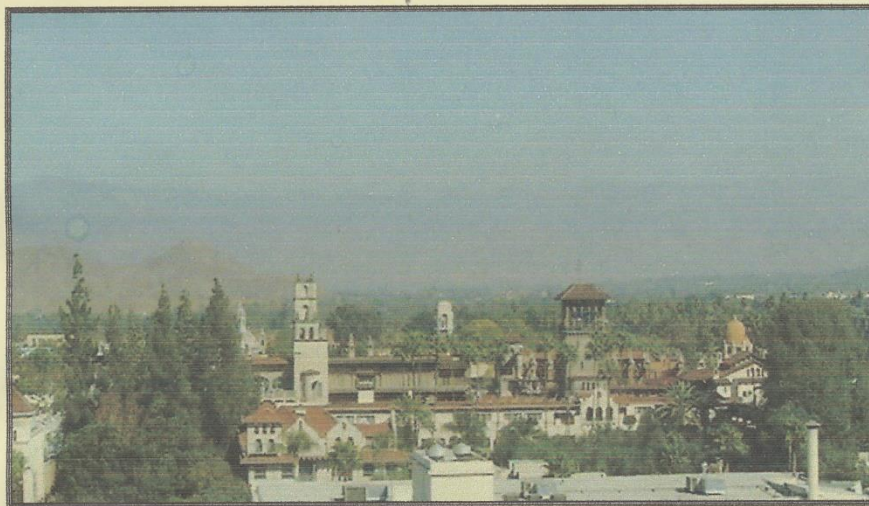


オレンジクラブ

2002 年 リバーサイド訪問記

(報告書)



主催 仙台リバーサイド交流連絡会 Orange Club

## 2002年 リバーサイド訪問の旅 日程表

日程	月日	都市名	時間	交通機関	主な行動予定
1日	11月8日(金)	集合仙台空港	0.486	各自	国際線1階ロビー
		仙台発 ソウル着	13:40 16:10	アジアナ航空 (OZ 15)	ソウル経由アメリカ へ 乗り換え
		ソウル発 ロサンゼルス着	20:00 13:40	アジアナ航空 (OZ 20)	(日付変更線通過)
		ロサンゼルス発 リバーサイド着	15:30 18:00	専用バス	リバーサイド到着後 自由行動
2日	11月9日(土)			徒歩	オリエンテーション ホームステイ 又は 自由行動
3日	11月10日(日)			徒歩	マラソン参加 又は自由行動
4日	11月11日(月)	休日ですのでハイキング			
5日	11月12日(火)	リバーサイド オープン カレッジ 2日間アメリカについて学びます (IRCが企画してくれます) 日常英会話 ボランティア活動 シニアセンター 日本文化を教える 小学校、シニアセンター、老人ホーム 料理教室 日本料理を教える、アメリカの料理を学ぶ ワイナリー訪問 カルホルニアワインの試飲会 予定ですので変更あります			
6日	11月13日(水)	上記と同じ			さよならパーティ
7日	11月14日(木)	リバーサイド発 ラスベガス着 ホテル発	8:00 12:00 4:30	専用バス	ラスベガスへ のんびり自由行動 さよなら会食会 (会場トランベッ
8日	11月15日(金)	ホテル発	0.708	専用バス	出発まで自由行動 オプションがありま す
		ラスベガス発 ロサンゼルス着	20:15 21:20		ユナイテッド航空
9日	11月16日(土)	ロサンゼルス発	0.014	アジアナ航空 (OZ 20)	ソウル経由 仙台へ
10日	11月17日(日)	ソウル着 ソウル発 仙台着	07:00 10:20 12:30	アジアナ航空 (OZ 152)	乗り換え 空港にて解散

## 目 次

◇ 団長 戸袋 勝行 「リバーサイド訪問の旅」	1
◇ 副団長 加藤 新一 「リバーサイド訪問を終えて」	2
◇ 佐々木 節子 「ジャネットゴスキーセンターでのいけ花教室」	3
◇ 佐々木 弘 「華道吟と謡曲について」	5
◇ 飯塚 幸江 「リバーサイド訪問団に加わって」	5
◇ 石原 照直 「姉妹都市リバーサイドを訪ねて」	9
◇ 小室 恵理 「リバーサイド訪問を終えて」	10
◇ 佐々木 弘 「ミッションインラン奮走記」	11
◇ 清水 恵美子 「リバーサイド市を訪問して」	14
◇ 庄子 幹雄 「リバーサイドの交流会に参加して」	15
◇ 鈴木 妙子 「広がった視野」	22
◇ 田中 恵子 「リバーサイドを訪れて」	23
◇ 永井 みさ子 「文化交流会に参加して」	26
◇ 藤田 優子 「“Orange Club リバーサイド訪問”に参加して」	26
◇ 盛合 佐知子 「リバーサイドを訪ねて」	28
◇ 相原 喜代子 「初めてのリバーサイド訪問」	29
◇ 交流アルバム	



## リバーサイド訪問の旅

団長 戸袋 勝行

今年は仙台市とリバサイド市の国際姉妹都市提携から45年が過ぎました。日米姉妹都市提携では仙台市は長崎市に次いで日本で2番目の事でありました。その間、幾多の交流があり、オレンジクラブからも（以前はリバサイド交流連絡会）多くの団体がリバサイド市を訪問しております。オレンジクラブの目的は、仙台市とリバサイド市の国際交流を市民レベルで行う事を主としており、お互いの訪問時の支援、交流活動等を行っております。

今回のオレンジクラブ主催の、リバサイド訪問は、単なる交流旅行でなく、アメリカを学ぼうと言うテーマを持って訪問する事になり。11月8日より17日まで21名の皆さんが参加しリバサイド市を訪問しました。

仙台からアメリカに行く時には成田廻りか、ソウル廻りかの選択がありますが、今回は韓国の航空会社アジアナ航空で、ソウル経由でロサンゼルスに行く事になりました。私達国際交流のボランティア活動をしていて感じる事に、仙台から外国に行く時、特にアメリカに行く時に直行便がない不便さを毎回感じます。ソウルに行き、また仙台の上空を通過してアメリカへ、ソウル便の航空会社に仙台に止まってもらい、その後、アメリカに行くように交渉が出来ないでしょうか、宮城県、仙台市に対して、せめて週3便ぐら仙台に止まってもらうような交渉をソウル側に働き掛けてもらうような陳情を私達で考える必要があるかも知れません。本当の意味での国際都市になるには、アメリカとのパイプが必要ですね。

訪問の目的の一つにリバサイドで行われる市民マラソン、ミッションインランに参加することでした。それと、その翌日が祭日にぶつかり、始めに考えた計画と少し違い、本来の活動の時間が取れず、私としては少し不満でしたが、仕方ありませんでした。

それでも、当初予定したスケジュールを順調にこなし、英語の教室では Not Study Use English 英語を難しい顔をして習うのではなく、英語を使おうという教え方は、私達になるほど良いヒントをもらいました。フランクご夫妻のユモアある教え方は、初心者 of 皆さんリラックスでき楽しい時間が取れました。最後の日の日本文化を紹介するコーナーには80名ものリバサイド市民の皆さんが集まり、特に生け花はアメリカのご婦人方に人気がありましたが、



お茶、習字、折り紙も多くの方が興味深く習っておりました。日本文化は東洋の神秘とも思われ人気があります。また是非来てくださいといわれながら会場を後にしました。アッと言う間の1週間、多くの皆さんと友人になり、オープンカレッジは終わりました。リバーサイドの友人の皆さん有難うございました。

この企画、毎年続けて、多くの仙台市民にリバーサイド市を知ってもらい、国際交流のあり方、アメリカという国はどんな国かを学んでもらう。また日本文化をリバーサイド市の皆さんに紹介する。オレンジクラブが毎年行う、恒例の企画にしたいと考えております。

## リバーサイド訪問を終えて

副団長 加藤 新一

仙台市とリバーサイド市の姉妹都市提携45周年の年に、リバーサイド市を訪問し「オレンジクラブ」とリバーサイド市民交流が沢山できました。今回はアメリカのリバーサイド市を学ぶ観光でしたが、素晴らしい体験をさせて頂きありがとうございました。

IRC 会長キャシー・プランクご夫妻をはじめリバーサイド市民の皆様には大変お世話を頂き、感謝の気持ちでいっぱいになりました。

リバーサイド市長ロバリッチ様より直接お話を頂きました。内容は、姉妹都市提携50周年に向けてのお話で、(50周年とは夫婦でいえば『金婚式』でもあり記念すべき年でもあります。)この記念すべき年に、日本庭園 仮称「仙台庭園」の提案がありました。特に私達オレンジクラブとしての取り組みも考えたいと思いました。

日本庭園プロジェクト担当の私は今回の訪問に際し、リバーサイド市にはどんな木があるのか、どのような石があるのか見て参りました。木は松、杉、桧、ねずもち等がある事が判りました。無い物はさつき、竹でした。石は日本庭園に使用できるものが沢山ありました。

当会員の佐藤栄様の仮設計に合わせて候補地も二ヶ所見て参りました。これからリバーサイド市と仙台市で決定を頂き、具体的に考えたいと強く感じた次第です。

今回の訪問で知り得た事は、リバーサイド市の福祉、市民の皆様のボランテ

ィア活動のすばらしさは学ぶべきものが多くありました。 私はこの体験を今後のボランティア活動に生かして行きたいと思います。

## ジャネットゴスキーセンターでのいけ花教室

佐々木 節子

この度のオレンジクラブのリバサイド訪問では、折紙、お茶、習字とともにいけ花もやることは夫から聞いておりました。その折に華道吟をやることについては、いま一つはっきりしませんでした。夫がブッシュエ洋子さんに電話で華道吟の説明をしていて、それをキャシーさんに伝えたところ、ぜひやって欲しいと言って来たのが、10月中旬過ぎでした。日本の伝統芸術の一つのいけ花を、海外の方々へ紹介するに当たって、実際にいけ花を体験して貰うことですが、華道吟によるいけ花の演出もいい着想と思い、夫とともに着物とか花器、鉢その他の小道具も準備してリバサイドへと旅立ちました。

当地は、私達の住む日本とは比べものにならないくらい緑が少ないが、樹木草花も見られ、まず安堵しました。ホテルから市役所への道々で、花材になるかも知れない落葉とかアレカヤシの撞木を拾ったり、剪定中の街路樹のポプラの枝を貰ったりしました。ホテルの植え込みにオクロレルカ、萱草(カンソウ)があることが分かり、ゴスキーセンターでの13日当日の朝、思い切ってフロントにいたボーイさんに、身振り手振りで2〜3本欲しい事を伝え、ニコニコしてOK、鉢まで持って来て下さり親切な心遣いに思はず頬が緩みました。ホームステイへの途中、キャシーご夫妻の案内で花屋、マーケットを数軒回り、カスミソウ、バラ、ユーカリ、ヒマワリ、チュウリップを当日11時頃までにキャシーさんに買って頂き、ゴスキーセンターに持って来て頂く事にしました。また、オアシスの準備もし、それでもまだまだ数が少なく、心細くなっていたところ、キャシー邸宅の庭にある草花を見せられ驚嘆、必要な花はご自由にと、ブーゲンビリヤ、イヌカキネガラシ、オオキンケイギク、玉シダ、ベアグラス、ソナレ、ツゲ、スギを当日の朝、ホテルに持って来て頂くことにしました。何でもご主人のステーブさんが、朝早く起きて準備されたとのことでした。その他ストレッチャをキャシーさんの知人から、オーガスタ、メリーをレストランで貰ったりしてデモンストレーションの立花新風体による華道吟用と体験用の



花材を集めました。体験用の花材は 35 人分作りましたが、足りなくなって残った花を寄せ集めて更に 5 人分作りました。それでも 3 時前には無くなってしまいました。

花材準備運搬のキャシーご夫妻、ハウタラご夫妻の着物着替え場所の心配とか花台の提供、ブッシュエ洋子さんの謡曲のための敷物の提供、その他私達メンバーのご協力お力添えによって、いけ花を恙なく終らせることが出来て、本当に有り難く感謝を申し上げます。

最後に、キャシーご夫妻には私達のために限りないご支援、ご協力をして頂き一生忘れることの出来ない財産となりましたが重ねて感謝申し上げます。

なお、参考まで花材を列举致します。

#### 華道吟いけ花

アレカヤシの撞木  
イヌカキネガラシ  
オオキンケイギク  
ストレッチャ  
カスミソウ  
バラ  
ポプラの枝

玉シダ  
オクロレウカ  
メリー  
ベアグラス  
ブーゲンビリヤ  
オーガスタ

#### いけ花体験 4 種類

ユーカリ  
バラ  
玉シダ  
オオキンケイギク  
カスミソウ

ユーカリ  
チューリップ  
カスミソウ  
オオキンケイギク  
スギ

ユーカリ  
ヒマワリ  
スギ  
玉シダ  
ツゲ

ソナレ  
萱草  
カスミソウ  
ツゲ



## 華道吟と謡曲について

佐々木 弘

日本の生け花の世界には、華道吟と言うものがあります。詩吟とか謡曲のバックミュージックの中で花を生ける様は、言い知れぬ情趣を伴い、非常に見ごたえのあるものとなります。バックミュージックには、詩吟、謡曲に限らず、ゆったりした静かな普通の歌、童謡でも合うと言われています。

生け花は、日本独自の伝統的な挿花の技法です。本来は信仰行事の一つとして始まり、神を迎え入れる場所に飾ったり、仏前に献じて供養したりしました。16世紀には、茶の湯の流行に伴い、茶室の花として生けられるようになりました。現在は、池坊、小原、草月の3流派が中心です。

次に謡曲について説明します。日本の三大古典芸能は、歌舞伎、能、文楽があります。その中の能は、西洋の歌劇のようなものです。古典的な舞踊に歌を伴います。その謡う部分を謡曲と言います。

鎌倉時代(1192~1335)の田楽、猿楽から、室町時代(1336~1568)に優雅な歌舞と結んで音楽劇として発達したのが能です。能を芸能として大成させたのが、観阿弥、世阿弥親子でした。

能は、発生当時は、社寺の拝殿や舞楽舞台を使用していたが、現在は能楽堂、特設能舞台で、能面をつけたシテ、ツレ(シテの助演者)やワキ(脇役で能面をつけない)、その他が登場して、演じられます。囃子に用いる楽器は、笛、大鼓、小鼓、太鼓の四種類です。

能の演目は、200 以上もあり、今回は「鶴亀」です。鶴は千年、亀は万年の齢を保つと言われております。何れも長寿で目出度いものであると言うことが、古くから言い慣わされています。この謡曲には、特別にストーリーはありませんが、この中の一部は、祝いの席でよく歌われます。

## リバーサイド訪問団に加わって

飯塚 幸江

11月8日から18日までリバーサイド市やラスベガスを訪問して、振り返ってみると大変充実した旅行であったという思いが日に日に強くなる。特に印象



に残った以下3点について感想を述べてみたい。

1) ホームステイについて

私を受け入れてくれた家庭は30代のご夫婦で、10歳と8歳の二人の男の子のいる家庭であった。ご主人のマイカーさんは医療用チューブを作る工場で、1日10時間働く元海兵隊員である。奥さんのノエルさんは専業主婦で、新しく建てた家のハウスキーピングと子育てにいそしんでいる。長男はシャイだがとてもまじめで勉強ができるので、大統領の署名の入った賞状をもらったということで、その賞状を見せてもらった。二男はなかなか人を愉しませる子どもで、面白い顔やしぐさをしたり、ノエルさんは「この子はちょっとおばかで。」と面白そうに笑っていた。賢い子とユニークな子をそれぞれに認めて育てている家庭であった。また客人に対する礼儀などはきちんとしており、それぞれあいさつができる子どもたちであった。

二人の家はベッドルームが3つで、それぞれ夫婦と子ども2人が使っている。わたしにはノエルさんの書斎がベッドルームとして与えられた。インテリアが凝っていてノエルさんの趣味のよさがうかがわれる。またこの家はマイカーさんがダイニングの壁を抜いて改造している途中であったり、裏庭はこれから芝生を植えていくという話であり、手作りの家という趣である。

夕食はノエルさんのお父さんご夫婦とノエルさんのお友達のよし子さん、この2世帯の受け入れた我々の3人のメンバーとで合同の夕食であった。よしさんはノエルさんの親友で、お互い元海兵隊員を夫としていることが共通である。夕食にはよしさんの御主人の作ったメキシコ料理のエンチラーダが持ち込まれ、少し辛かったが、夫が作る料理ということで一興であった。

夕食はまずマイカーさんの食前の祈りから始まり、「主よ、今日も一日の糧を与えてくださり、感謝します。」という内容である。その敬虔な祈りの言葉に、無宗教である自分も11人で囲む食卓に感謝をささげた。ちなみにこの家の宗教はプロテスタントで、カソリックであったノエルさんが彼に合わせて改宗したのだそうである。

食事の最中は会話が弾んだが、英語の不自由な我々は主によしさんのリードで、インテリアの話や日本人であるよしさんのここまでにいたる話などを愉しんだ。アメリカ人の社交性はこのような食事の習慣や、パーティの繰り返しにより育てられることが実感された夕食であった。

食事の後、他の家族が帰ると、もう明日の勤務の早いマイカーさんは眠そうであったが、ノエルさんとともに二人のこれまでの話やカリフォルニアを発見するために功績のあったインディアンの女性サカジュビアのことを教えてくれたりして付き合ってくれたのであった。その後マイカーさんは寝たのかというとノエルさんの後片付けの手伝いをしていたようで、日本人の自分にとっては感心な夫であった。ただ仕事もして、家のこともして大変な人生だと思ったのも正直なところである。

通常、一般市民にとって海外旅行というのは観光旅行のことであるが、今回の訪問はリバーサイドオープンカレッジと銘打っているとおり、大変学ぶことが多かったのであるが、宗教に基づいた生活の中で、一生懸命に働き、きちんとした子育てをしている家庭を見ることができたことは、アメリカというと、銃や麻薬、貧困という点からの報道に接することがほとんどである自分にとっては、自分のアメリカ像を広げる、ほっとする機会であった。

アメリカ合衆国の特徴のひとつに多様性ということが挙げられるので、ノエルさんの家庭もまた、全体を代表するものではないことは承知しているのであるが、少なくともまだアメリカ社会を支える“家族”とは、基本的にはノエルさんのお宅のようなものだろうと感じた。自分の中にアメリカの家族を考える時に基準ができたことは幸いであった。

## 2) ホスピタリティとボランティア精神について

IRCの仙台部会の長であるキャシーさんは、ご主人のスティーブさんとともに、我々の滞在のお世話をしてくれたのであるが、朝早くから夜遅くまで、その対応には本当に頭がさがった。他の皆さんも同じく、歓迎会から行事に参加して我々をもてなしてくれたが、その心をたずねると「自分たちも日本を訪問すると同じように歓迎される。」とスティーブさんが答えてくれたことがあった。



このような人をもてなすホスピタリティが国境を越えて人の心を繋ぐのだと、身をもって感じる事が出来たのはよい経験であった。だれに強制されてでもなく、自発的に行動することを重んじるというアメリカ人の心性も見習うべきことだと感じた。

今、日本では、とくに福祉行政側の職業にある自分には、有償でおこなわれるサービスだけでは、福祉サービスを必要とする人の需要を満たすことが出来ない現実が見えている。高齢化がますます進んでいく時、日本人はアメリカ人のボランティア精神に大いに学ぶことでひとつの問題解決の方法が生まれるように思った。

### 3) グランドキャニオンの思い出

ラスベガスについてオプションツアーでグランドキャニオンを訪れることができ、その雄大な自然に触れることが出来た。小さなセスナ機で飛び、あまりゆれなかったが怖かった（帰りのフライトは見習のパイロットが操縦していたことは何人の人が知っていただろう、実は私も教えてもらうまで知らなかった・・・）ことと、眼下に広がるとてつもなく大きな自然を見ることができたことがとても有意義であった。

雄大さといえば、日本にいても北海道は自然が雄大であるが、その北海道もまだまだ子どもみたいなもの、といえるほどの巨大さは、実際見てみないと、経験しないと絶対に理解できないものである。まさに百聞は一見にしかず。写真で見るのとはまた違って、あの侵食の崖の奥行きや深さのもつ臨場感は格別である。本当に行くことができてよかった。

家族を置いて一人で参加した旅行であったが、まさに神の作り賜いしものを見てしまい、心新たに仙台に帰った自分であったと言える。本当に「神様っているんだ」と実感させてくれたグランドキャニオンであった。

つまらないことばかり書き連ねてしまったけれど、この旅行に参加したことで、民間レベルの交流の大切さを知ったことや、自分の心の中にある、何かを図るときのものさしを作り変えたことが大きな収穫であった。また、家庭生活や職業生活だけでは得られないメンバーとの交流を得られたことが財産になった旅行であった。うそに聞こえるかもしれないけれど、出かける前と帰ってき

てからでは、自分は少し変わったと思う。少し謙虚になったと思う。自分を変えてくれたものすべてに感謝して、この感想をまとめることにしよう。



## 姉妹都市リバーサイド市を訪ねて

石原 照直

我々オレンジクラブ一行は初冬の仙台国際空港を予定通りソウル（インチョン）経由で、アメリカ西海岸のロスアンジェルスに向け不安と期待を抱きながら出発した。

今回のオレンジクラブの旅行企画は一般の観光旅行と異なって諸々の新企画で一杯であり、それに加えラスベガス モンテカルロという立派なホテルに泊まり、オプションでグランドキャニオンを小型飛行機とバスによる見学も含まれ、日本では見られない神秘的な風景やめずらしい動植物に触れる事ができ、大変すばらしい経験をしてきました。

またリバーサイド市の IRC の関係者のご好意によりミッションイン・ラン、市長および市庁舎への訪問、市庁舎を会場としての日常英会話のレッスン、ホームステイ、およびシニア施設における市民レベルでの交流等々の充実した企画が盛り沢山組み込まれ、特にこの施設内で行われたお花、お茶、折り紙、お習字、コーラス等を通じ両市民の草の根的な交流がなごやかに行われた。この交流は言葉の障害を乗り越え、身ぶり手ぶりでお互いの意思疎通が行われ、本当の意味での国際交流が行われたのではないかと感じている。

この旅行で体験した感想らしきものを挙げると、関係者の皆様が我々を大変親切に受け入れてくれ、誠意を以てもてなしてくれた。これは日本びいきの人が多いという事を少し割り引いても、チャリティ、ボランティア、寄付、ドネイション等に関する彼等の考え方が日本のそれと大変異なるのではないかと感じ、それがキリスト教的な考え方とか行動パターンが何か影響しているのでは



ないかとも感じられた。(これは小生だけの独りよがりの見方かも知れないので、お許し下さい。)

いづれにしても今回の旅行は私自身のために大変良い体験であり、勉強でもあったことを報告に終わりとしたい。

また、同行の皆様には大変お世話様になり、厚く御礼申し上げます。

## リバーサイド訪問を終えて

小室 恵理

盛り沢山のスケジュールをこなしたリバーサイド訪問では、今まで経験したことのないこと等、すべてが感慨深いものでした。

何をピックアップすればいいのか迷うところですが、あえて取り上げれば 11 月 10 日、初めてのマラソン大会参加！(もちろんウォーキングでの参加ですが) それがカリフォルニアだったというのが素晴らしい！！

パームツリーの並木道を抜け、緑の公園に入り、しっとりと落ち着いた家並みを抜けて～。澄んだ空気と美しい町並み、前日の夜時差ボケで眠れぬまま参加するはめになってしまったにも関わらず、あの早朝の感動は忘れられない一コマです。そして大会終了後、ますます悪化する時差ボケを抱えたままホームステイへ。せっかくのホームステイを病人の様な顔をして訪れてしまい、大変申し訳なかったのですが、Ernie & Fumi 御夫婦の暖かい心遣いには本当に有り難く、すっかり元気にさせて貰ってホテルに帰していただきました。

我が家では今まで、何人かホームステイの受け入れをしてきたのですが、今回改めて Ernie & Fumi 御夫婦にホームホスピタリティということについて、身をもって教えていただいた気がします。

またいつか、今度は息子と一緒に親子でカリフォルニアを走る日が来るだろうか？ その時にはまた Ernie & Fumi 家に訪れてみたいと～、次の夢へ向けてスタートです！

## ミッションインラン奮走記

佐々木 弘

去年の6月半ばからですが、その年11月のミッションインマラソン参加に向けて具体的な準備を始めました。まず単独参加はちょっと心細いので、平成10年11月の仙台市スポーツ振興事業団主催で行われた、ダラス市の「ホワイトロック・ハーフマラソン」に参加した仲間に声をかけました。早速今回のミッションインランにも参加した庄子幹雄さんが手を上げ、最終的には二人で行く事にして、航空機の予約、リバサイド、ラスベガスのホテルの予約も8月中には済ましておりました。その時、世界全体を震撼させた9月11日、ニューヨーク世界貿易センタービル破壊の同時多発テロ事件が発生したのです。気を病みながらその後1週間程模様を見て、これはやばいとすべてをキャンセルしました。年が変わり今年の4月か5月頃か、庄子さんから、今年の秋のミッションインマラソンの参加計画の問い合わせがありました。その時は既にオレンジクラブでは、ミッションインランを含めたりバサイド訪問計画が決まっていたので、その旨を伝えた次第です。前置きが十分長くなりました。

オレンジクラブは今年の3月に正式に発足しましたが、その時点で秋のミッションインランの時期にリバサイド旅行が計画されました。私がミッションインランの担当に指名され、7月半ばに同マラソン事務局の責任者のローラ マルチネスさんにイーメールでスケジュール等の問い合わせをしたが、アドレスが間違っていたりして上手くいかず、キャシーさんに相談したところ、平成12年仙台ハーフマラソンのリバサイド選手団の団長で来仙したマイケル フィゲロワさんが面倒を見て呉れるとのことで、8月9日にフィゲロワさんからウェルカムのメールが届きました。その後2、3のメールのやりとりで、マラソン参加の申込書は参加人数分送っておきますが、参加費18ドルを添えての申込みは、マラソン前日の土曜日午前中で差し支えないとの事でした。9月4日午後141のエルパーク仙台セミナー室でリバサイド旅行の説明会が行われ、そこで体調に不安がある者を除き全員がミッションインランに参加することが話し合われました。10月25日午後5時から「日通旅行」の説明と最終打合せを、前回と同じく141で行い、そこで10キロマラソン2名、5キロウォーキング20名の参加が決まり、その旨をフィゲロワさんとキャシーさんにメールしました。丁度その頃フィゲロワさんが旅行中で不在のため、キャシーさんが、マラ



ソン事務局に最終参加者を知らせに行った所、事務処理上困るので、参加費 20 ドル(10 月 11 日以降の申込は 18 ドルではなく 20 ドルとのこと)を添えて申込書を出すように言われ、それをメールして来ました。参加費は私が立替えて送金は可能ですが、参加者に前日渡した申込書の回収は到底不可能です。キャシーさんにその旨を伝え、戸袋さんから送ってある名簿と参加費 18 ドルでキャシーさんの立替払い、それに参加 T シャツの寸法は私の適当な目見当の通知により、彼女の尽力によって、事前の受付が終った次第です。

さて、当のミッションインランの行事に入ります。ホテル.マリオット.リバサイドに宿入りした翌朝 7 時 45 分ホテル玄関前に全員集合、簡単な準備体操をして、フィゲロワさんの先導でコース周りですが、予定時間が 9 時までで、スタートのマーケットストリート を 10 分ばかり歩き、コースを逸れてフェアマウント公園に入り、エバンス湖を右に見てコースの最終のサードストリートに戻って来ました。途中リバサイドでは、中クラスの家並みを眺め、元気なシニアのウォーカーの一団と挨拶を交わたりして、コース周りを終えました。

11 月 10 日日曜日ミッションインランの当日です。天気は上々、朝 6 時半ホテルロビー集合、フィゲロワご夫妻も来ました。T シャツとゼッケンをフィゲロワさんから渡されました。T シャツの寸法は、私の目論見でキャシーさんに知らせたものでしたので合わない方もおり、フィゲロワさんが大会関係者から交換してもらいました。5 キロウォークに参加のキャシーさんも長い脚の短パンスタイルで現れました。ご主人のステーブさん、それに秀子さんも参加します。I.R.C.メンバーも何人か応援に来ております。5 キロウォークのスタートは 7 時 35 分、10 キロラン参加の 2 名と、不参加者 2 名以外の 17 名は、スタートの号砲を待っております。TV で正確に時間を合わせた時計が 7 時 35 分になっても号砲が響きません。1, 2 分遅れてのスタートです。10 キロランのスタートは 8 時 30 分で、一旦ホテルに戻り、頃合いを見て、ゴールポイントに向かいました。

来た、来た、永井さん、続いて花園さん。参加 17 名全員ゴール。勿論キャシーさんご夫妻、秀子さんも。5 キロウォーク参加者 367 名中、永井さん 92 位、花園さんは 93 位でした。

10 キロランのスタート時間が近づいて来ました。ランナーが集まって来ます。5 キロウォークの倍くらいか。庄子さんと言葉を交わし、上位を狙う彼をスタートライン付近へと口添えして、私は最後部へと回ります。10 年ほど前までは、

私も中ほどあたりに位置してスタートしたのですが、近頃は直ぐに追い越されてしまうので、常に最後部から走り始めます。マーケットストリートを抜け、エバン湖の橋を渡ったところになってもランナーが後に続いています。私は、何処の大会ででも走っている間まず振り返りません。10分くらい走っても相当数が未だ後ろにおる所から見て、日本の市民マラソン大会に較べて遅いなと思いつつ走りました。時計を見たらスタートして40分、もう庄子さんはゴールしているかな。私はまだまだ、でも10年前は私もそろそろゴールだったはずと、下らないことを思いつつ走り続けました。結果は、652人中、庄子さんは、45分37秒の86位、私は、1時間2分55秒で459位でした。ゴール付近にステーブさんがいて、盛んにグット ジョブと叫んでいました。7月下旬に心臓不整脈、心室性期外収縮と診断されましたが、医者からは余り心配する事もないと言われたものの、やはり気にしており、マラソンを無事完走し終え、ほっとした次第です。

かくして、私の2年がかりのミッションインランは終わりました。不整脈は大したこともなさそうなので、国内外の市民マラソン大会への参加に胸を熱くしている昨今です。

なお、末尾となりましたが、今回のミッションインランの参加者数は5キロランが963名、子供ラン419名、5キロウォーク367名、10キロラン652名で全部で2,401名でしたことを書き加えます。





## リバーサイド市を訪問して

清水 恵美子

アメリカ・リバーサイド市でのホームステイ、そして市民マラソンへの参加・・・それらのことは、長い間の私の夢でした。

ずっと憧れていましたが、不安もちろんありました。一番の心配は英語を話せないこと。また、ホームステイ先はどんな家庭なのか。でもそんな私の不安を吹き消すように、ホテルに着きましたら、たくさんの方々が花束やフルーツなどで歓迎してくださいました。

「エミコ！」

といって抱きしめてくださったのが、ホームステイ先のスーさんでした。とてもやさしそうな方でほっとしました。

翌日は「歩くコース」の下見です。小雨でしたが、市内を見物しながらコースを歩きました。公園の敷地を通り抜け、沼のほとりを歩きました。自然に恵まれた美しい街です。どの家にもプールがあり、広々としていて驚くばかりです。グループのみなさんとゆっくりコースを一周してきました。ゴールまで歩けるだろうか、また、その後のホームステイでは言葉が通じなくて大丈夫だろうかといろいろ考えて、その夜はなかなか寝れませんでした。

いよいよ本場。ゼッケンをつけてスタートラインへ。たくさんの人々が見守る中、スタートしました。どんどん追いこされましたが、私はマイペースで歩きました。苦しくなってきましたが、ゴールまでは、と心に念じアメリカの土を踏みしめて歩きました。ゴールに着いた時は嬉しかった。「やった！」と大声で叫びたいぐらいでした。翌日の新聞に名前が掲載されると聞き、それもまた初めてのことなので胸がいっぱいでした。

午後には、スーさんが車でホテルに迎えに来てくださって、彼女の家に向かいました。日本語は通じず、何を聞いてもスーさんは「OK」だけ。私は「サンキュー」だけでした。家に着くと、ご主人のレジさんが迎えてくださいました。家の中には楽器がたくさん・・・レジさんはミュージシャンなのです。

「サクラサクラ」を演奏してくださいました。ローマ字で書いた言葉を読んで「OK」と言ってくださったり、日本語のCDを流してくださったり、言葉がなかなか通じないのでそれだけ気をつかってくださいました。パームスプリングまでドライブにも連れて行ってくださいました。車の中でジャズを聴いて、

美しい風景を眺めとてもいい気分でした。椰子の木が至るところにあり、夕日が赤く染まる夕暮れを今も思い出します。

他国へ来て言葉が通じないだけに人の心の温かさを感じ、深く感動しました。ホテルを発つ時、スーさんご夫婦が早朝にも関わらず見送りにきてくださいました。嬉しいのですが、お礼の言葉がでてこなくて泣いてしまいました。できることなら、もう一度リバーサイドを訪ねてみたいものです。

このように生涯忘れることのできない素晴らしい体験をできたのも、オレンジクラブの皆様、一緒にグループの皆様のお陰です。キャシーさんご夫妻には夜中というのにロス発の便に見送りに来ていただき本当にお世話になりました皆々様方に心から感謝申し上げます。

## リバーサイドの交流会に参加して

庄子幹雄

今回の交流会は全く旅行業者の企画した単なる観光旅行とは違って、オレンジクラブ独自の企画によるもので、現地の方々と友好と親善を目的としたもので意義深く初めて経験するのも多かった。

旅行日程は10日間と長い日程と思ったが、あっという間の10日間であった。

韓国からのASIANA機内でのステュワーデスとパーサーによる「Frying Magic Show」は予期せぬ演出で、まずこれには拍手をおくった。終了後、マジシャンと一緒に写真を撮ってもらったのも、これからの旅行を楽しいものにさせてくれるスタートであった（後日メールがきた）。

ロスアンゼルス空港に到着した時は、雨で年に2～3回降る雨と聞いていたが、この日は雨であり、これも歓迎の意味かとも思われた。雨に濡れた樹木が緑々と生き生きと感じた。

バスに乗りFreeWayを走り一路、リバーサイドに向かい、途中、渋滞に合ったが予定より40分遅れてホテルに到着した。

今回の私の目的は、

①参加者と現地の方々と友好を図り、親しみ、家庭生活を体験し、又一人でも多くの人と会話をする。



- ②英会話学習を通して現地の生の教えを学ぶ。
  - ③初めての土地でマラソンを通し、周囲の風景を楽しみながら走る。
  - ④現地の店で、前から欲しかった品物を買うこと。
  - ⑤観光として、日本で人気のあるラスベガスと米国の国立公園をこの目でしっかり見ること。
- 以上5つの目的であった。

## 1、友好と親善

まず最初に今回、佐々木さんご夫妻を除いて、初めて18名の訪問団員の方々と知り合いになり、全日程を無事に終えたことを感謝しお礼申し上げます。団員の中には何回もリバーサイドを訪問した方もおりましたが私は初めてであり、現地の方々は日本人も多く、日本語も通じるので安心感がありましたがなるべく英語で話すことを心掛けました。

ロスアンゼルス空港までの出迎え、ほとんど全日程、また離米する時もロスアンゼルス空港までの見送りにきていただいたキャシーご夫妻には深く感謝する次第です。市庁舎での元市職員によるリバーサイドの歴史について話され、ある程度の知識を得ました。ここでも現地の方々の話を聞いたり、我々と会話をしたり、はじめての日から親しみを感じた。

ゴスキーセンターでの文化交流は日米共に文化を紹介する機会でお互いの異文化の知識を得たことと思われます。

7人の女性によるギターの演奏は年令を感じさせない、若々しい演奏で、又楽しいし知っている曲でもあり、会場の聴衆は一丸となって歌ったりした。又ジャズの演奏も独奏、ギターとの共演もあり、本場のジャズを堪能した。又、楽器もクラリネット、フルート、トランペットといろいろな演奏し、万能奏者と思った。始めは独自に専門家を呼んできたのかと思ったが、あとでI.R.C.の会員の一員で清水さんがホームステイしたホストファミリーと聞いてびっくりした。

一方、日本文化の紹介では華道、茶道、書道、折り紙と4コーナーに分かれ、それぞれ担当された方々の技術は最高のもので、各コーナーはどれも人気があり終始なごやかな雰囲気です。真剣に習っていた。時間が足りないようで残念であったが、この企画は大成功と思われた。

私は何ら技術も無いので華道の下働きをしたが、会話ができた事は私自身よ

い思い出となった。

一方、スーパーでの買い物、レストランでの食事、散歩、公園での昼食などいろいろ自由時間があり、現地の方々と話す機会が多分にあった。

例をあげるとワイン工場の見学でがりあのさんからワイン飲み放題、おつまみ食べ放題（と思ったのは自分だけかな？）のもてなしを受けた一方、奥さんとお話をして部屋を見せていただいたり（これも私だけかな？）又、子供さんと、その友達には日本語が全く分らないというので「ありがとう」という言葉を日本語で教え、メモに書いて置いてきた。奥さん子供達からワインをもらいあとで写真をおくる予定でいる。

スーパーでは自分が選ぶ品物をどれを選んだらよいか迷ったので、店員のアドバイスを受けて買ったり、ショーケースを覗いて、日本との食品の価格を調べているとノートを持っていたのでどこかの記者と間違えられ、ハイと返事をしたら相手の女性も雑誌社の記者で名刺を渡され、双児の子供があり、一人だけベビーカーに乗せてあとは留守番と言っていた。ここでも写真を撮りサインをもらったので後ほど送ろうと思っている。又、公園での昼食では皆さんから離れ申し訳なかったが、前方のベンチに座って男性のところに行き、いろいろと話して、彼は昨年まで N.Y に済んでおり、たまたま Sep.11 のテロ事件に合い、その後リバーサイドに移ってきたと話していた。ここでも写真を取り、サインをもらい、後で写真をおくることとした。

他にいろいろあったが、マラソンのスタートラインで隣にいたご婦人がお腹が大きかったので「いつ生まれるの」と聞いたら、にこにこして3月頃と答えて「大丈夫よ」と言っていた。マラソンが終了し、イベントコーナーで各種催しを行っていたが、6 人のチアリーダーが子供達を相手にメダルを渡していたが「皆さんの写真を撮りたい」と言ったら皆が喜んで応じてくれた。

可愛い6人で皆さんに写真を見てもらいたい。Arlington High School のメンバーでここでも各人からサインをもらい写真を送ろうと思っている。

小さい頃から見てみたいと思っていた事に米国本土での家庭訪問をして実際に家庭生活に接することであった。この度のこの機会を得た事は私にとっては一生の一大出来事であった。短い一日であったが家庭に踏み入れた時は家の中が何もかも珍しく感じた。米国の家庭にはプールがあり、土足で入ると聞いていたがそのものであった。（全家庭はそうではないと思った）。たまたま日本語を話すまさ子さんの家庭であり、訪ねる前は英語のみかなと思ひ不



安であったが、いつしか会話は日本語になっており、ご主人と話す時は英語であったので米国の家庭の雰囲気は味わえた。夕方の dinner はふみさん家に加藤さんとまさ子さん夫婦と行き、ここでは予期しなかった "thanks giving day" に出す料理が用意されていた。この料理は年に2回、他にクリスマスに出すという最高の料理と話していた。ターキー、ポークと初めて食べる料理で皆さん含めて7人であったが食べ切れず大部分が残ったが残りはどうしたのでしょうか。まさ子さん宅でも少しいただいたようですが、楽しい一時も時間が建つのは早く感ずるものでもっとゆっくりしたかったが別れの時間となった。

数々の友好の体験をして皆さんの友情を厚く感じ取った。英語が話せなくても勇気を持って相手に話し掛ける事が大切だと思った。他にもあったが1はこの辺で。

## 2、英会話の勉強

お二人の授業はとても丁寧に教えていただき内容も即、実用的であり分りやすかったと思われた方もいると思いますが、私にとっては授業時間内全てが英語で分らない語彙もあり、理解できない部分もあったが、理解度は60点かな。日本に住んでいた事もありクラス分けもドラゴンズ&ジャイアンツとユニークな分け方でもあった。

先生の宿題に5つの問題があり、そこから一つを選択して発表する課題で、私は「post office に行って郵便切手を購入する」を選択し、郵便局はどこにあるかを知っていて買うつもりでいたが、なんだか時間がなく買えなかった。日本に送付するハガキの切手を買うつもりでいた。発表は残念ながら買えなかった事を発表した。このクラスは何故か5題全部を経験した事になり、それを各人が発表した。それぞれが選んだ課題はいずれも自分で経験しないと課題を解決できないし、また英語が即戦力となる事が日本では経験できないし、必ず英語を使わないとできない事もよい体験となった。

先生の緊張をほぐす英語の歌も気分転換になりよかったし、ギター独奏も心和む授業であった。

## 3、マラソン参加とコース風景を楽しむ

今回は5km ウォーキングと5km、10km マラソンがあり、10km マラソ

ンに参加を申し込んだ。以前からマラソンに参加する意志でいたので、10日は待ち遠しかった。佐々木さんと二人だけの参加となり、不参加の2人を除いて他は全員5kmウォーキングに参加した。

私は日頃トレーニングを積み重ねているが、若い時は各レースに参加していたが、今ではほとんど参加していない。

日本でも各地を旅行するが、その時に必ずランシャツ等を持参し旅先での街を走りながらメインの観光ルートだけを見るのではなく、そこから外れた街の中を走り、色々な発見をしてきた。今回もその意味では知らないコースを走る事により、より良い発見を経験した。前日に皆でコースを下見した所のコースにも良い所が多々あった。雨のため途中で引き返しましたが、マラソン当日は天候にも恵まれた。コースは市街地、公園、住宅地などを走り公園を過ぎた所から今までとは全く違った風景があった。コース両側は丘になっており、木は全部伐採され、昨日までの雨でコースに泥流が流れてきている所が何ヶ所もあり走りづらかった所もあった。リバーサイドできれいな街並や公園しか見ていなかったのも、こんな近くにこのような荒れた所があるとは予想もできなかった。こんな所が何kmか続き、公園、住宅地と入ってきた。あの伐採された山からは道路に泥が流れ、破壊されたような環境になっていた。美しい街や公園がある一方でこのような状況も見ることができた。

10kmマラソンには750余名の参加者がおり、86位の順位であった。

#### 4、現地での買い物

今回の旅行は買い物が主な目的ではないが、行くと決まってから、本場でしか買えない意義あるものと考え、次の3つを決めた。それは

##### (1)米国国旗を買う

なぜ買うのかと聞かれても困るのだが、欲しいから買うと答える他無い。まさ子さんに3軒ほど店を回っていただいたが、なかなか売っている所が無く、3軒目でようやく見つかったが、2種類で各1枚だけで大きい布製の物を買った。金額が高かったが良いものであった。皆さん一度見にきて下さい。ボールに掲揚します。

##### (2)フォスターのアメリカ民謡とカントリーソングのCDを買う。

これもまさ子さん夫妻と一緒に2軒ほどまわったがフォスターの曲は売って無かった。またカントリーはめばしいものは無く買わなかった。パームスプ



リングに行く途中、モールに立ち寄った際、キャシーさんの夫スティーブさんに主旨を話しお願いして音楽レコードの専門店へ連れて行ってもらいカントリーソングは購入したが、フォスターの CD は無かった。店員になぜ無いかと聞くと簡単な答え「今は米国では誰も聞かない」と答えが返ってきた。

### (3)英英辞典を買う

この辞典はかねてから息子に頼まれていたもので日本でも英英辞典は売っているが本場で売っているものが欲しいというので、これもまさ子さん夫妻に専門店に案内された。多くの辞典の中から一冊購入した。これは最初の店で一発で決まった。

## 5、ラスベガスとグランドキャニオン

リバーサイドから FREE WAY に入り、砂漠の中を通り約 4 時間でラスベガスに着いた。

FREE WAY は片側 3 車線で広く、中央分離帯も広く、一部にはサボテンがそのまま繁えているところもあった。砂漠の中では車はほとんど通らないというイメージがあったがナンノ、対向車も多く特に大型貨物車の通過も多いのには予想外だった。サボテンも低層のが主だった。たまに中程度のも見かけたがそれは僅かであった。走っているとたまに小さな街並が見えたが、ほんの何分かで通り過ぎて行った。どこまで走っても直線で日本では経験できないものであった。天気も良かったこともありバスの中で気分は最高で、特にラジオを持参したのでカントリーウェスタンの音楽を聴いていたが映画に出てくるシーンを体験しているように思えた。

バスが日本でも人気のあるラスベガスに入ってきたと思うと「ああここがそうか」という思いがした。ストリップ通りをはさみ高層のホテル群が立ち並ぶ光景には圧倒させられた。カジノは日本のパチンコ屋のように一棟（一軒）の建屋でやっているとはばかり思っていたが、まさかホテル内にあるとは思っても見なかった。ホテルは高層で 1 階のフロアーはことごとく広くそこにカジノがある。その台数といい、ゲームの種類といい、すごいという外無い。パニーガールも忙しそうに客に頼まれた飲み物などを運んでいた。何と言っても圧巻は夜のイベントであった。ミラージュの火山噴火、ベラツジオの噴水、アラジンの雷雨を見たのはラッキーであった。いつまでも見ていたい気分になったが時間が無かったのは残念でした。

砂漠に巨大な都市が現れ、高層ホテル群が立ち並びそこを行き交う諸外国から来たと思われる観光客の多さ、又昼間より夜間の方が活気ある雰囲気をもたらすネオンの輝き、24時間眠らない街と言われる所以は納得できる。又サンシティーセンターからのディナーをしながらのラスベガスの夜景は絶景であった。一方、小さい時からの悲願であった米国の国立公園どれか一ヶ所を見るという思いが今回実現した事は最大の喜びでもあった。米国には55の国立公園があり、なかでも有名なのはイエローストーン(WY) ヨセミテ(CA) グランドキャニオン(AZ) デスバレー(CA) などがある。

今回幸いにも GRAND CANYON を見る事ができ、しかも飛行機に搭乗し上空からの約1時間に渡る飛行での眺めは何とも言えない感動を覚えた。

キャニオンは全長450km と聞くが我々が眺めたのはごく一部に過ぎないという。飛行場からバスで2ヶ所の VIEW POINT から身近でみると壮大さに圧倒され GREAT GREAT と心の中で思った。ただ眺めるだけで無く時間があれば CANYON の下に降りハイキングなどできたらいいなーと思ひも馳せた。50ドルのバックがあり費用が浮いたのも観光を何倍をも楽しみさせていたのには感謝します。

今回の交流訪問で添乗員もつかず、オレンジクラブ独自の企画で意義ある友好と親善の旅に接れ、未知の世界で数々の知識を得て22人のメンバーに知り会えた事は私にとって最大の収穫とも言える。

尚5つの目的として取り上げましたが、他に市長の表敬訪問に際しリバーサイドのメイヤーは挨拶をしながらコーヒー（コーヒーを飲みながら挨拶をする）を飲んでいたのは最初とまどったが、すぐ米国だなーと納得した。もし仙台市長がこのようなスタイルで挨拶したらどのように写るでしょうか。

ワイン工場の見学は休みというのに工場を開けていただき試飲まで楽しませていただいた。

当日は雨で天候には恵まれませんでしたが Galleano ワイン工場を見学でき楽しく勉強にもなりました。ガリアノさん自ら雨の中をこと詳しく説明を受け、またワイン貯蔵タンクとして使用していたタンクを改良して事務室？として使用し、中にある絵画や机などがあり、非常に趣のある演出であった。試飲では我々を自分達が住んでいる家へ案内し、一つ一つワインの特徴を説明しNo1～No7までのワインを試飲で無く自分は飲み放題の気分で味わってしまった。



また奥さんの手作りのつまみもおいしく、ワインが捗って仕方が無かった。いい気分になった。

奥さんはじめ家族全員でもてなしてくれるのは考えられない。日本ではどうでしょうか見た事も聞いた事ありません。

お嬢さんがクリスタルさんといい、友達もお二人も手伝いしてくれた姿を見て感銘を受けた。二人の娘さんに日本語が全然分らないというので一つ日本語を教えましょうという喜んで是非といい、メモ用紙を持ってきたので“ありがとう”=THANK YOU=と教えたならにこにこ喜んでいた。今も覚えているかな？

短い滞在期間でありましたが、いろいろな事を経験し、多くの方々にお世話になり深い感銘を受けた事は私の最高の思い出となった。

12月にリバーサイドから仙台へ訪問すると聞いていたので是非、自分の家へホームステイをしていただきたいとつくづく思った。

同行の皆さんに感謝致します。

## 広がった視野

鈴木 たえ子

交流するというのが、いかに大きく深い意味を持つものか・・・しかも国際的にということとなれば文化、慣習、そして環境の異なる異民族とのそれは、裏返せば自己研磨の最たるものと、今回の体験で実感した。

この旅で最も大きく目を開かされたのは老人福祉の在り方であった。明るく開放的なリバーサイド市の施設、自由を満喫しているように見受けたラスベガス市の豊齢者エリア等を訪問することで、我仙台市との比較、さらに自身の豊かな老後のビジョンが広がっていった。

10年前、私は老人福祉を2年間学び、以後仙台市の当推移について注目してきた。その観点から今回の見学について次の疑問が生じた。

その1、両市とも設けられた場所が郊外であること。

その2、同世代のみの生活エリアであること。

この2点から「パラダイス」の表面的な裏に、社会臭がちょっぴり薄く感じられたのは私だけだったかもしれない。

ただ、もっとゆとりのある訪問での体験であったなら、もっと広い視野で見聞

し納得する点多かったのであろう。

ちなみに、私の理想的な老後観とは、地域社会の一員として相互扶助の下に自然交流を営み続けることである。

故に、リバーサイド市との今後の交流に老人福祉課題をより多く組み入れて頂ければと願っている。

終わりに、初めての参加で皆様からたくさんのお力添えを頂きましたことを心より感謝いたします。ありがとうございました。

## リバーサイドを訪れて

田中 恵子

初めてのアメリカ旅行は仙台と古い交流のあるリバーサイド市でした。終ぞ、足を踏み入れるとは思っても見なかった砂漠の中のその町はとても親しみの持てる小さなオアシスでした。そんな静かな町の中にあるミッションインはアンティーク好きの私をすっかり魅了しました。一言でその気品を表現することはできません。一方、私達がお世話になったマリオットホテルも又、疲れを癒す寛ぎの場として私達の旅を更に楽しいものにしてくれた様でした。折から催されたミッション・イン・ランは当市の皆さんと触れあう又とない好機でした。中でも私達のグループから出場、よく頑張って走られた男性軍の勇姿は印象的でした。

英会話クラスでは細かい活字の難しい新聞の切り抜きが配られ四苦八苦する私達を眺め楽しんでいた男性の先生や「日本語ではなく英語で」と優しく指導して下さいた女性の先生。ほんとうに楽しいお勉強でした。

楽しい日々の中でも一際緊張したのが単身訪問のホームステイ。70才代のご夫妻が優しく迎えて下さり、日本とは異なる生活習慣に加えて人をもてなす姿勢の自然さを肌で感じました。スキッパー夫人は軽やかなハンドルさばきでショッピングモールやヘリテージハウス（アメリカン・ビクトリーハウス）に案内して下さい歓迎して下さいのお気持ちが伝わってきました。ヘリテージハウスの係員の流暢な説明は殆ど聴き取れませんでした。英国ビクトリア時代の貴族の暮らしを彷彿させる室内装飾、調度品などなどに暫し惹き付けられました。取り分け、木製で手動式の洗濯機や彫刻が施された便器など主婦の



目にはとても刺激的でした。

昼食は御主人の運転で EAT OUT。ご親切にトレイを持たせて下さり、好きなものを選んでお皿に取り席につき、半分近くは自己紹介の楽しいランチタイムを過しました。10 Km 以上走って家に帰り、夜は知人の弁護士さん宅のパーティーに同伴させて頂きました。お友達の送別パーティーに偶然加えて戴き減多にできない貴重な経験をできた事、とても幸せでした。パーティーの一部始終は旅の疲れを忘れさせる「夢の世界」で、切れ目切れ目に入るホストの挨拶など 正に洋画で見た、あのシーンの再現でした。ディナーを戴きながら、殿方のおぐしの薄くなるのを憂う話で盛り上がり、どこの国もご同様と微笑ましく思いました。奥様のお料理も然る事ながら遠来の客にかけて下さる言葉やエレガントな微笑みは初体験の私の緊張を和らげてくれ忘れられないひとときを過すことができました。時間も9時を回り、ホストハウスに戻り、間もなく就寝。

明けて朝食はご夫妻おふたりで用意して下さいました。コーヒーをたて、ベーコンエッグとトーストにはお庭で採れたざくろのジャムを添えて下さり、同じジャムをお土産に下さいました。

来客を招くための特別な事をしない生活スタイルとご夫妻の自然体はほんとうに私を at home な気持ちにさせて下さるものでした。

夫人は朝食後歯医者に出かけ私をホテルに送って下さったのはご主人ウィリアム・ウッド氏でお庭からざくろやミニトマトを籠に入れて持たせて下さいました。奥様の車はホンダ、ご主人の車はトヨタ、楽しい楽しいホームステイでした。

翌12月リバーサイドの訪問団の中にそのスキッパー・ウッドさんがおられ、今度は私の家にホームステイでお越し願うことになったのです。

その後足を伸ばしたラスベガス、グランドキャニオンのことなど書けば切りが無くなるそのスケールの大きさには、ただただ圧倒され思い出に胸を膨らませ仙台に戻ってきました。旅行ってほんとうに素晴らしい・・・の一言に尽きると思いました。

一ヶ月後の12月8日夜 江陽グランドホテルに到着したりバーサイドの皆さんは流石に疲労の表情を漂わせ、そんな中キャシさんご夫妻、スキッパーさん等と感動の再会を果たしました。赤がとてもよくお似合いのキャシーさんはこの度は黒のコート。こちら引き締まってとても Lovely でした。滞在中

の皆さんは松島、秋保などを観光、そして12日イルミネーション点灯式のあとはスキッパーさんがいよいよホームステイの我が家へ。来客、泊まり客に馴れてはいても外国の方の受入れは緊張しました。息子共々親しく語り合い風呂に入って戴きました。勝手が違うので、どうかな・・・と心配するほどでもなく「秋保温泉と同じ気分で、とても good」と喜んで下さいました。

翌日は私に凡て任せるというスキッパーさんの言葉に従い、高台から市内を一望できる青葉城趾に御案内、お店で少しのお土産を買い求め、遠くに蔵王連峰を望むレストランでフランス料理の軽いコースを御馳走しました。お口に合ったようで自然に食も進んだようでした。そして一路ゆりが丘へ。リバーサイド同行の永井さん、華園さん、石川さんら皆さんが集まって下さり現在名取市の文化遺産に指定されている「洞口家」へ。100年以上も前の日本家屋を見学。永井さん宅では抹茶のお茶会となりました。純日本風の和室と座卓、座ぶとんでスキッパーさんは長い脚をのぼし2・3日前秋保温泉でもテーブルの下に脚をのぼしたと話されました。お弟子さん達にお茶を教えている華園さんのお手前でスキッパーさんはお味が気に入りお茶と御菓子をおかわりしたのです。

ひとしきりお茶を堪能した処に永井さんが間をおかず、「コーヒーでも如何ですか？」と言ったところスキッパーさんは大変驚き「これが日本の習慣なのか？」と瞠目されておりました。スキッパーさんが「私は混乱している」と言ったのには全員大笑いしました。日本人が上客に示す畳掛けるサービス過剰はアメリカの人には理解できなかった様です。お茶のあとは永井さん宅の日本庭園を散歩。この日は「JAPAN」を満喫された様でした。

永井さんはじめ、ご家族、そしてゆりが丘の皆さんには心から感謝しています。

家に戻って早くも最後の夜。夕食はすきやき。翌朝8時過ぎに仙台駅集合。沢山の見送りの方達に囲まれ、新幹線“はやて”はその名の通り風と共に去ったのです。

かくして、私のリバーサイドは閉幕。

スキッパーさんの余韻は未だ私の中に残っています。

すがすがしく。





## 文化交流に参加して

永井 みさ子

仙台市の姉妹都市であるリバサイド市で文化交流が出来るという喜びと期待、ちょっぴりの不安を持ちながらの出発……。機中の人となる……。ホテルに着くと、真っ赤なバラの花に込められた心温まるお出迎えに、疲れも吹き飛ぶような感動でした。

リバサイドはいたるところにやしの木が有り、オレンジの街路樹で自然がいっぱいの美しい街でした。

この街でマラソン大会の5kウォーキングに参加し次の日新聞に名前や順位まで載ったことは感激でした。

初めてのホームステイは奥様が日本人ということもあつて、英語が話せない私でもあまり緊張することなく過ごし、夜には抹茶をたて、喜ばれました。

文化交流の一つである英会話教室は「楽しく英語を使いましょう」というコンセプトだったのですが、緊張の連続でした。

日本文化を伝える教室は書道を担当しました。初めて筆を持った人や懐かしんでいる人、皆んなとても真剣でした。父親が結婚した娘に贈りたいので「愛」を書いて下さいと頼まれて書いたのもいい思い出になりました。

リバサイドの最後の夜は皆さんと食事を楽しみ別れを惜しみました。

ラスベガスではショッピングやカジノも楽しみました。

最終日のグランドキャニオンは天気にも恵まれ、宇宙から見える唯一の地形といわれるだけあって、渓谷の大パノラマの絶景、自然が作った芸術品に感動・感動・感動でした。

このように素晴らしい体験や経験が出来ましたのも戸袋さん始めお世話してくださった方々のお陰だと思います。本当に有難うございました。

## “Orange Club リバーサイド訪問”に参加して

藤田 優子

今回初めてリバーサイド訪問団に参加して、楽しく色々な有意義な体験をさせて頂きまして本当に有難うございました。

去年オレンジクラブに入会しましたがそれ迄夫の転勤であちこち行っておりましたので、このクラブの存在を知りませんでした。入会募集のお知らせを見て、仙台市の姉妹都市であるリバーサイドは有名でしたのでそれで入ってみました。今年も秋に訪問して交流を暖めるとお聞きしましたのでぜひ参加してみたいと思いました。ついでに役員も引き受け、国際センター祭りでは、カリフォルニアワインをコップで味わうことなどのお手伝いをしました。

今回の旅行では、ただ写真を撮るのは嫌いじゃないという理由だけで、下手にもかかわらず写真の係りを引き受けましたが、これは皆様にとってはいい迷惑だったと思います。こちらにも慣れない旅でボーとしている内に、いいシャッターチャンスは過ぎていくこともしょつ中でしたし、フィルム切れ（6 個しか持っていかなかった）、電池切れをするボケもやりました。それでもフィルムは、ホテルの売店で買ったり、親切なメンバーの人に英語のレポートを書く代わりに、フィルムを何個ももらったり、又ほかの人にお借りしたり、キャシーさんにも 1 個分けてもらい、ステイブさんにはマーケットに連れて行ってもらい同じ型の電池を買うお手伝いをして頂いたりして、結局 15 本は現像できました。どれもこれも今いちで皆様に申し訳ないんですが、ほとんど全員がデジタルカメラや、ハイクオリティなカメラをお持ちで充分ご自分で撮っていらっしやったので、アテにされていなかったのが、本当によかったです。グランドキャニオンでは、遠景とはいえ足もととは絶壁でしたので命のことだけ考えていました。

ジャネットゴスキーシニアセンターで、折り紙、書道、生け花、お茶のパフォーマンスにメンバー全員が一生懸命取り組み現地の人と交流したり、教えたりしていたのはとても感動的でした。日系人の人も何人も来て下さり昔取った杵柄で、なつかしそうに次々とチャレンジして楽しんでおられましたのを拝見しますと、何か胸に来るものがありました。どうして貴女はここに住んでいらっしやるのかと一人一人にお伺いしたいような気持ちにもなりましたが、皆様とてもお幸せそうでした。

短い一週間の旅でしたが、カリフォルニア、アリゾナの空も澄んで秋晴れの本当に気持ちのいいどこ迄も広い広い空でした。

仙台に帰ってから、家の者にもお土産など出して感謝の気持ちをちょっぴり伝えたことでした。



## リバーサイドを訪ねて 2002.11.8～11.17

盛合 佐知子

この旅は私のこれからの人生にとって、とてもインパクトの強いものとなりました。今まで身内の者のみの為に過ごして来た人生に区切りをつけるよい機会ともなり、この事を神に感謝。

この旅に参加する事になったきっかけは、一年前新聞記事で友人の住さんがリバーサイドと仙台の交流について話していた事でした。早速、住さんから一ヶ月単位で英語の勉強がリバーサイドで出来る計画があると聞き、是非参加したいと思った事でした。

実際に参加出来る段階で、これは姉妹都市への親善旅行である事を知りました。そこで予め訪問の目標が定められ、私はシニアホームへの訪問、英会話の授業と華道教授のお手伝いをする事でした。

いざリバーサイドに到着すると、私達の目的に応じて夫々に市民の方々のサポートをいただきました。そこで皆様のボランティア精神に満ちた生活の一端を垣間見る事が出来ました。

この旅で印象に残った事は沢山ありましたが、その中でシニアセンターを訪問した事が第一で、皆様が夫々の老後を友人達と元気に楽しく過ごしておられる事、又それを公共機関が大きくバックアップしている事でした。日本の実状をよく知りませんが、私個人の身内の介護を通して、見聞きし、感じていた事とは大分隔たりがある様に思われ、羨ましく感じて参りました。

第二は英語の授業を通して、たった二日間でしたが、先生御夫妻の教授法には目を見張るばかりでした。僅か六時間の授業でしたが、実践的で、突然のレポート作りの宿題もあったりで、とても充実したものでした。日本で十二年間も教えられた経験もおありとの事でしたが、御夫妻共々とても素敵な品格のおありになる方で、私は魅了されてしまいました。日本のこれからの英語教育もこの様な方法でなされれば、若人達の国際化に大いに役立つものと感じ入りました。

その他、私の趣味の一つのウォーキングに参加した事、グランドキャニオンを写真ではなく、実際に目の当たりにし、その壮大さ、すばらしさに感激し、太古のインディアンに想いをはせた事、憧れのディズニーランドを訪れた事（まだ日本のディズニーランドにも行ってませんが、先ずオリジナルをと思ってい

たもので)そこで私達を案内して遅くまでつき合って下さった、ボランティアの学生さん二人の献身的なサポートにも感謝するばかりでした。

色々と思い出す事の多い十日間でしたが、労を厭わず親身になってお世話して下さい下さったキャッシー、スティーブ御夫妻始め、サポートして下さい下さった皆様に心より感謝し、お礼申し上げます。

また御一緒した皆様にも何かとお世話様になり、ありがとうございました。

## 初めてのリバーサイド訪問

相原 喜代子

11月8日            リバーサイド到着

朦朧とした頭で、まるで一日後ろ向きに走って来たような不思議な気持ちで、丁度仙台空港を飛び立った同じ日、同じ時刻頃ロスアンジェルス空港に降り立った。これが私の初めてのアメリカ旅行第一歩。雨に濡れた空港でプランクさん御夫妻に迎えられ、急ぎバスに乗り継いで一路リバーサイドへ。

なんと広い道路! 片側6車線? やっぱアメリカは大きい~

車の渋滞で到着の時間がかなり遅れたにも関わらず、我々がホテルに到着した時リバーサイドの皆さんは辛抱強く待って、暖かく迎えて下さり、ひとりひとりに見事なバラの花や果物の袋を用意して長旅の労をねぎらって下さった。それは私達の疲れを忘れさせる暖かく瑞々しい思いやりを感じさせた。

11月9日            マラソンコース下見

シティホールにてオリエンテーション、歓迎ランチ

Galleano Winery 見学

朝食の前にミッションイン・ランの下見ということで時々雨の落ちる中コースを歩き、昨日見ることのできなかつたリバーサイドの街をゆっくりと眺める。リバーサイドは緑の豊かな、静かで落ち着いた街で、決して大きくはないけれども住み易そうな親しみの持てる街という印象である。午後シティホールにてオリエンテーションとI.R.C.主催の歓迎ランチのもてなしを受ける。

驚いたことにシティホールに入る際セキュリティチェックがあった。あのテロ事件の影響であろうか?



会場では和やかにリバーサイドに関する説明があり、引き続いて I.R.C. 会員の手作りランチを御馳走になり、楽しく会食をした。我々のメンバーの数人は再度の訪問で、懐かしそうに話されている様子が交流の重なりを感じる。

11月10日

ミッションイン・ラン参加

午後ホームステイ、ホームビジット

いよいよ目玉のひとつミッションイン・ラン参加、佐々木、庄子両氏は 10km マラソンに参加し他は 5km ウォーキングに参加する。はじめに我々ウォーキング組みが出発し約 50 分後全員ゴールした。その後暫くミッションインホテルを見学する。ミッションインホテルはリバーサイドのシンボリックな建物で、スパニッシュ風な建物と世界各地からのアンティークな品物で飾られた素晴らしいホテルである。今回は見るだけということになったが、是非一度は泊まってみたいところである。その後マラソンに参加した二人のゴールインを応援に行く。まず庄子氏がほぼ予定通りのタイムでゴールイン、続いて佐々木氏も無事にゴールインした。二人の達成感一杯の表情が素晴らしかった。

午後、旅行前から期待をしていたホームステイに出かける。残念ながら一泊という短い期間の体験となったが、ミドルエイジの御夫婦に 22 才の男子を筆頭に 17 才の女の子まで 3 人の子供さんのいる家庭で、住居は 1 エーカーの土地にプールとテニスコート（建築中）を備えているという大きな家である。アメリカの家の平均がどのあたりかは分からないが、子供達の悩みなど、とにかく良く話をする奥様で、母親の共通性や女性が仕事を持ち且つ家事をこなして行く大変さなど理解できる事も多くあった。一生懸命頑張って生きておられる普通の市民の方と交流ができて良かった。そんな話をしながらも彼等は私をメキシコ料理のレストランで御馳走をしてくれたり、ディズニーランド、カリフォルニアアドベンチャーに連れて行って一緒に楽しんでくれた。感謝、感謝……

11月11日

Cabazon Outlet Stores にショッピング

午後 Palm Springs に、Mt. San Jacinto でディナー

ホームステイ宅で朝食の際、ホストの奥様が今朝の新聞に昨日のマラソンの記録が出ていることを教えてくれた。記念にとその新聞を頂いて来る。全ての競技参加者の名前と記録が載っており感激。短いホームステイが終わりホテル

に戻って今日はハイキングデイ。大きなショッピングモールに連れて行って貰い楽しんだ。私自身はそれほどブランド品に興味は無かったが、台所用品と近付くクリスマスのためのグッズが楽しかった。それにしてもいつも買い物の際に必ずリバーサイドの方がグループに一人づつ付き添って下さる配慮がとても有り難い。

午後パームスプリングに行きトラムウェイで山頂に上り、林の中の散策コースを歩く。厳しい自然保護の地域ということで落ち葉ひとつ持って帰ってはいけないそうだが、日本では見られないような樹木や大きな松ぼっくりなど落ちていて、大変楽しい散歩となった。トラムウェイのレストラン付近ではアライグマの家族や Blue Jay（瑠璃色かけす）など見られた。また山頂からの見晴しが素晴らしく、周辺の砂漠がまるで海のように見えたのが不思議であった。

11月12日

シティホールで英会話クラス

リバーサイド市長 Mr. Ronald O. Loveridge 氏と面会

午後 ジャネット・ゴスキーセンターで文化交流

曾て岐阜の女子大で教授をしておられたロン先生御夫妻による英会話の授業を受ける。はじめに自己紹介を型通りではなく、各グループでお互いに情報を交換した上で皆に報告をするという形で行い、次に我々の苦手な発音をその違いを気付かせながら練習、そして我々の興味のあるような話題の記事を提示してそれを読んだ上でディスカッションをするという高度な授業まで。とてもハードな内容もあって苦勞だったが、その手法も私にとっては大変参考になった。

簡単と思われる授業だけでなく、少し難しいと思われることもチャレンジすることで、寧ろモチベーションが高まるかもしれない。

午後の文化交流では、ジャズの由来の説明や演奏、シニアの女性のグループ“WHY NOT”に依るフォークソングの演奏など美しいハーモニーと彼女達の素敵な様が私達を元気にする。また、Reggieさんのジャズもとても良かったし、彼がアメリカにおける黒人達の音楽がどのように発達してきたかの話も、悲しみを越えて淡々としていて胸にじんと来るものだった。

11月13日

シティホールで英会話クラス

午後 ジャネット・ゴスキーセンターで文化交流

昨日に続き英会話の学習、今日は昨日の宿題を発表する。私はホテルのビジ



ネスセンター室でインターネットを体験した話をした。実に便利な時代で、今は何処にいても時間に関係なくインターネットでメールをチェックして留守家庭等の情報が入るのである。しかも日本語で見ることができるのである。

午後今日の文化交流は我々の日本の文化を発表、体験して頂く番である。佐々木さん御夫妻の華道吟というセレモニーがあり、これは分からないながらも、とても日本的なものとして受け止められたと思う。引き続き4つのグループに別れ、お花、お茶、書道、折り紙と各グループで体験指導を行った。いずれのグループも盛況で大いに盛り上がった。私は折り紙の指導にあたったが、小さい子供の覚えが早くて、お年寄りがそのペースについて行けず、両方を満足させることが難しかった。もう少し係りの人数が多かったら良かったと思う。

とても忙しかったが、言葉を越えて一番楽しい交流であったように思う。

11月14日

ラスベガスに移動

サンシティーのシニアセンターを見学、ディナー

別れを惜しんでホテルまで見送りに来てくれたリバーサイドの方々と次の再会を約して、バスでリバーサイドを後にする。どこまで行っても真直ぐな道が砂漠の中を伸びていて、アメリカの広さ、大きさを感じる。途中ギリシャ風のカフェテリアに寄り、一休み。ケーキがとても美味しかった。

4時間程バスで走った頃、砂漠の中に突然きらびやかな街が現れて、ここがラスベガスである。メインの通りには様々な趣向のホテルが立ち並び、まるで大きなお伽話の世界である。夜ともなればキラキラと輝く宝石のよう・・・

夕方サンシティーのシニアセンターを見学して、素晴らしい環境と施設に感動した。それにしてもあちらの皆さんは遊び方、楽しみ方が上手だと思う。多分若い時からある程度の訓練があるのだろう。夜、カジノで遊んでみる。ルーレット、カード、ダイスなどは全く分からないのでスロットマシンのみ。

もう少し時間があれば楽しめたのに、明日はもう出発である。残念！

11月15日

ラスベガス観光

夕方 ラスベガスを立ってロス、ソウル経由で帰途

ラスベガスよりセスナ機でグランドキャニオンに飛ぶ。2箇所のビューポイントでグランドキャニオンの壮大なパノラマ図を堪能する。その地に立つとこれは真に荒々しく巨大な地球を感じる。やはり神の造型だとしか言い様のない

風景だ。ひとの何と小さいこと！！。 本当はもう少し時間をかけて歩いて見るべきなのだろう。 あの細く見える溝のような道の奥に今も古くからの生活を守っているアメリカンインディアンがあると言う。古代からの人類を想像させる神秘的な風景だ。

短い観光のあと早くも帰途につく。ロスアンジェルス空港で、国内線から国際線に乗り換えるのはちょっと大変なのだが、遅い時間にも関わらずキャシー、スチーブ御夫妻が手伝って下さって、無事に移動することができた。旅行も終わりに近付いて皆疲れているのだが彼等のお陰でどれほど助かったか知れない。

11月17日                      ソウル経由で仙台着

今度は、16日の夜を経ないで17日昼過ぎ所用のある戸袋さんをアメリカに残して、無事仙台に到着。待ちかねた家族の皆さんがニコニコと迎えにきていた。

それにしても、あの16日夜は何処に消えたのだろうか???

最後に、最初から最後まで良く私達の面倒見てくださった Steve and Kathie Webber-prank 御夫妻、そして I.R.C.の皆さんには感謝の言葉ありません。明るく華やかで配慮の行き届いたキャシーさん、彼女をしっかりとサポートするスチーブさん、素晴らしいカップルに惚れすら感じました。そして、ある時私はキャシーさんに「こんなに親切に何から何まで良くして頂いて、私達仙台の人たちはこれからどんな風にしたら良いのでしょうか」と申し上げたところ、御自分達が仙台の方達に学んだのですよ、と答えられました。そうなのか、私達がこんなにも歓待を受けたのは先輩の皆様のこれまでの交流のお陰なのだ、と気づかされました。

学ぶことの多い楽しい交流の旅を、ただそれだけの旅に終わらせることなく、これからは活かし交流の継続が大切なのではないかと思いました。これからも少しずつ自分の出来ることでオレンジクラブに参加していこうと思います。





# 交流アルバム



リバーサイド IRC  
の方々が、ホテル・  
マリオットに出迎  
えて下さいました。



力走のあと  
余裕の庄子さん



ミッション・イン・ラン当日  
10km ラン・5km ウォーキング参加



完走してホッとする  
佐々木さんと奥様



パームスプリングの  
ゴツゴツした岩だらけ  
の山で





リバーサイド市庁舎  
市長表敬訪問



英語教室  
“レッツ・スピーク”



キャシーさんや秀子さん達と  
広い公園でランチ・タイム





ゴスキー・センターにて  
今日の文化交流会は  
楽しかったですね



しばらくぶりで  
筆をとってみて、  
やっぱりお習字は  
いいものです



日本のティー・  
セレモニーは  
落ち着きますねえ、  
身体にいい  
ですもの





折り紙で色んな  
ものが折れるん  
ですよ。  
“覚えて行こう”



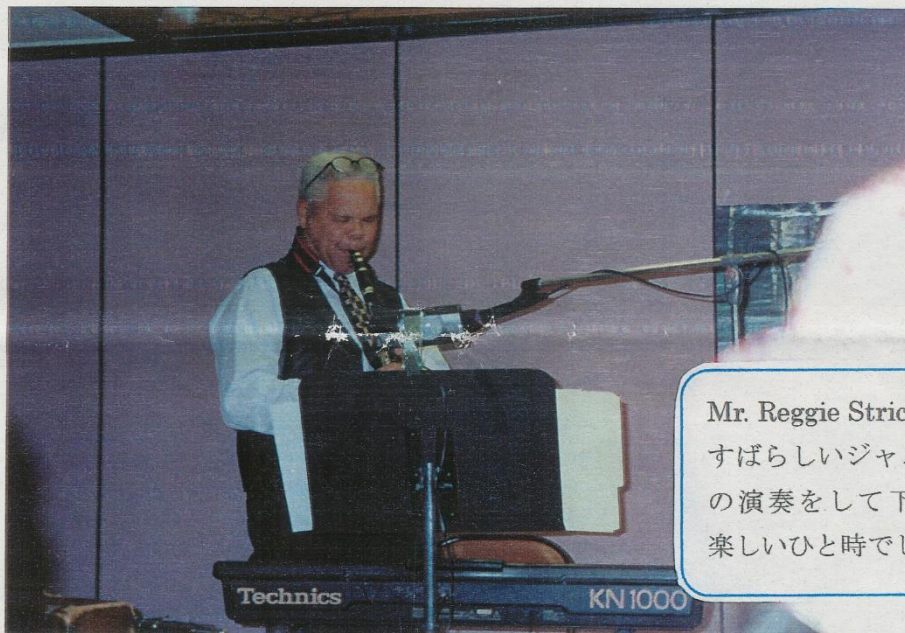
フランクリンご夫妻にラスベガス  
のサンシティ・シニアセンターを  
案内して頂きました



グランドキャニオンにて  
顔だけ出してしゃがんでいます



ジャネット・ゴスキー・  
センターで The Why  
Nots の皆さんの演奏  
と歌  
心暖まるものでした



Mr. Reggie Strickland  
すばらしいジャズやブルース  
の演奏をして下さいました  
楽しいひと時でした



ゴスキー・センターにて  
チェスを楽しむシニアの方々

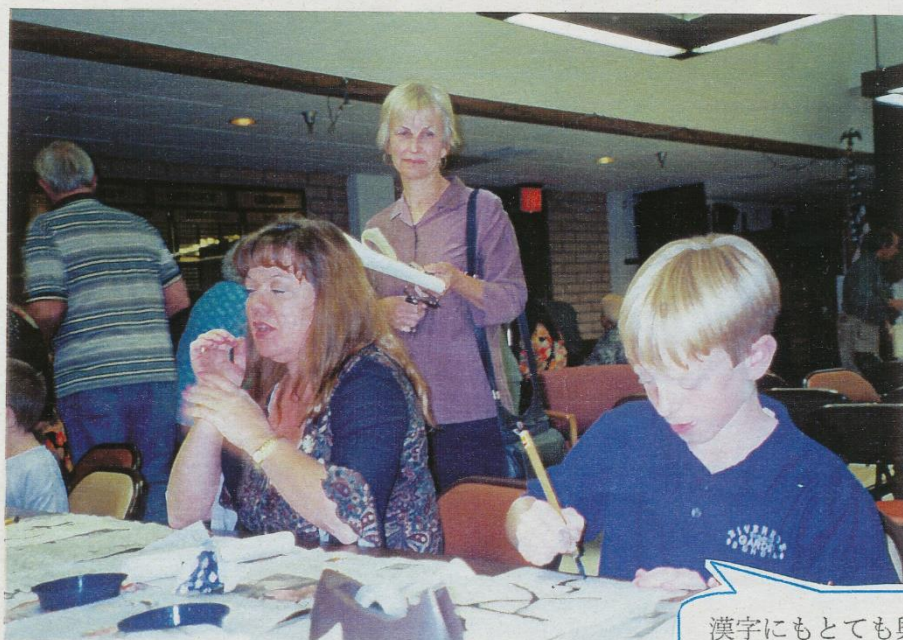




佐々木 弘さんは、  
奥様の生け花の実演  
に合わせ華道吟を  
披露しました



生け花を習う  
人達  
大変好評でした



漢字にもとても興味  
のあるトラビス君



## 参 加 者 名 簿

阿部 晴己	佐々木 宏子	永井 みさ子
鈴木 妙子	花園 久美子	田中 恵子
河部 美知子	小室 恵理	飯塚 幸江
佐々木 弘	清水 恵美子	戸袋 勝行
佐々木 節子	相原 喜代子	石原 照直
住 かつ子	藤田 優子	加藤 新一
盛合 佐知子	石川 満喜子	庄子 幹雄



## 編 集 委 員

相原 喜代子	清水 恵美子
庄子 幹雄	藤田 優子
阿部 晴己	盛合 佐知子
小室 恵理	